

2009 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会福祉	学科
担当科目	社会福祉学基礎演習 I		

<秋学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

○ 仕事内容

主に以下の4つの仕事を行った。

- ・ 全体クラスでの資料配布、出欠確認
- ・ 小クラスでの講義補助（グループワークの援助）
- ・ 全体クラスでの発表（卒論作成に関する報告）
- ・ チューターの Web サイトにおける業務報告書作成

特に、小クラスにおけるグループワーク（GW）の援助に力を注いだ。GWの内容は、KJ法の実践とふくぶく村の地図作成である。前者における私の具体的な仕事内容は、まず1回生のGWにおいてKJ法を用いるように導くこと、次に行ったGWがKJ法というものであることを伝え、教えることだった。後者での仕事は、同様のGWが就職活動の採用試験として用いられたことから、私は採用面接官という立場でGWを観察し、最後に意見を述べた。

○ 気づいたこと

- ・ 発表時の自分の癖

終盤の講義において、チューターそれぞれの卒論作成の報告を行った。これは春学期と同様に全体クラスで行われ、その話の内容はテープ起こしされ、文章化された。この経験は私にとって非常に大きなものであった。なぜなら、人前で話すときの癖に気付くことができたからである。それは仕事であり、言葉遣いでもあった。この癖を知り、改善する目標を得ることができた。

○ チューター業務を終えての感想

私自身としては、1回生との関係構築が上手くできず、1回生のためになる講義補助を行えたかは疑問であるが、このシステム自体は非常に良いものだと思う。私たちが1回生のときにこのシステムがなかった。そのため大学生活や大学そのものに不安がある際、上回生に相談したくてもその接点がなかった。しかしこのシステムによりその接点が生まれた。チューターによる講義補助として、大それたことはできないが、この接点を生み出すことは、1回生にとって大きな利益となるのではないだろうか。

<今後のチューターまたは先生への提案>

経験者として、チューターの方には1回生に積極的に接することを薦めます。チューターと1回生の距離を埋めることが、最大の講義補助ではないかと思います。